



土木史フォーラム

Newsletter of Committee on Historical Studies in Civil Engineering
Japan Society of Civil Engineers

No. 20 2002. 4.

目次

土木史ニュース フォーラム 地域のニュース	天城山隧道(天城トンネル)でマイカー規制を実施 錦帯橋・平成の架け替え 大阪府で初の近代土木遺産登録 鞆の浦がWMFのワールド・モニュメント・ウォッチに選定される フランスにおける近代の歴史的記念建造物の保護 訃報 市川紀一氏のご逝去を悼む 第22回土木史研究論文発表会 登録文化財となった土木構造物一覧 『廃墟漂流』『大井川に橋がなかった理由』他	市古 太郎 1 大熊 孝 2 有井 宏子 3 市古 太郎 3 北河 大次郎 4 小林 一郎 5 5 7 横松 宗治 8 岡田 昌彰
-----------------------------	--	--

土木史ニュース

天城山隧道(天城トンネル)でマイカー規制を実施

近年、土木遺産に対する住民および関係機関の意識変化にはめざましいものがある。利活用の視点からは、この世論を受けて具体的にどのような活用策があり得るのか、ソフト・ハードを含めた技術の蓄積が必要である。

2001年11月16日～19日の4日間、静岡県伊豆地方に位置する天城山隧道(天城トンネル)でマイカー規制が実施された。天城山隧道は1998年10月に登録文化財、その後2001年6月に「現存する国内最長の石造道路トンネル」として重要文化財に指定された。明治37年(1904)建設、延長446m、幅員3.5m、有効高3.15mで、大仁田町の吉田石を使った石巻工法の隧道である。

具体的に規制方策を述べると、・道路交通法に基づく車両通行止めの実施(許可車両、タクシー、軽車両及び寒天車道への路線バス等の指定車を除く)、・駐車場の確保(3つの駐車場でトータル駐車台数は普通車424台、大型車18台)、・無料シャトルバスの運行、が実施された。

ハイカーブームも手伝って、4日間の間に延べ8000人を超える観光客が訪れた。天城湯ヶ島町と河津町が約1000人の訪問客を対象に実施したアンケートによると、「たいへんよい」「どちらでもよい」「車は通したほうが良い」の選択肢のうち、「たいへんよい」とマイカー規制を支持した観光客が90%弱に、また今後も規制を実施することを支持する、とした回答者も90%弱におよんだ。

天城山隧道の系譜は、土木学会誌2000年6月の特集で富野章氏が解説しておられる。富野氏が「車

が走ってはいけないとまでは言わない。防災や安全を損ねてもいいといっているわけでもない。でもこの道は、もう少し車が遠慮して、その分、人が威張って歩いていい道だと思う」と述べられていたことが、社会通念であり、地元の努力によって実現可能であることが示されたとも言えよう。

また、今回の取り組みで注目されるべきは「社会実験」として、静岡県、天城湯ヶ島町、河津町が協力してすすめた体制にあらう。そしてその協力関係は、今後市民団体、NPOとの連携へ広がっていくことが期待される。

バイパスが確保されている道路施設では、交通規制によって旧道に存置する土木遺産をより市民に親しみやすく触れてもらうことが可能となる。天城隧道のマイカー規制は、ソフトなしくみという点で、今後の土木遺産を活用していくための大きな経験であろう。

(東京都立大学 市古 太郎)

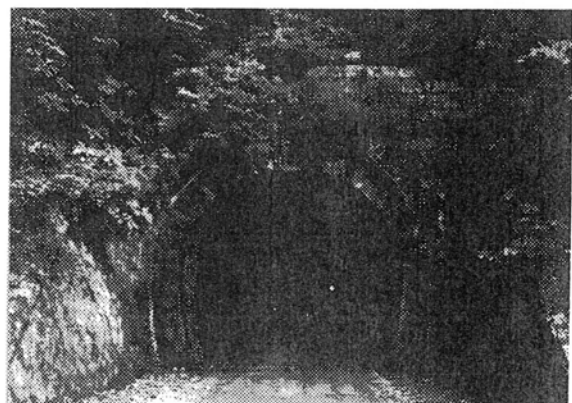


写真 天城山隧道

錦帯橋・平成の架け替え

大熊 孝

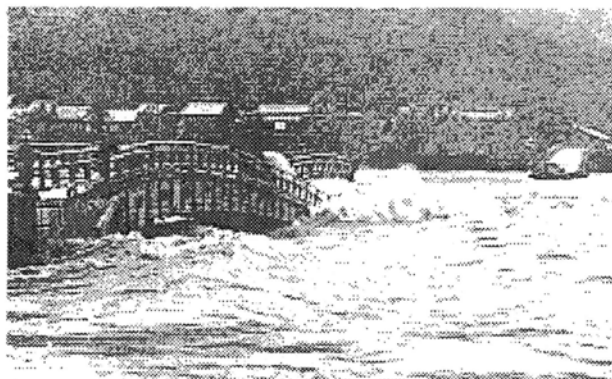
(新潟大学工学部教授)



2001年11月から山口県岩国市の錦帯橋の全面的な架け替えが始まっており、完成は2004年3月の予定である。

錦帯橋は1673年に創建されたが、翌年の洪水で流失し、1674年に再建された。それが、20年から30年に一度の部分的修復を繰り返しながら、1950年まで維持されてきたが、同年9月のキジャ台風による洪水で橋脚が崩壊し、流失してしまった。これを1953年に再建したものが現在の錦帯橋である。

この再建の方針に関しては、国の『名勝』（1922年指定）であることから、東京で文化庁文化財保護委員や建設省、学識経験者、国会議員、山口県・岩国市関係者の合計32名からなる委員会で議論された。我々に馴染みの深い名前として田中豊、鈴木雅次、青木楠男の委員名が記録されている。この会議で注目されるのは、田中豊委員が『将来手数がかからないように・・・鉄筋コンクリートにして外観が木材に見えるような工法を考えて見ては・・・』と提案していることである。激論の末、文化財保護委員会第二部会長の大熊喜邦（私の縁戚にあらず）の『文化財としては木造で残したい、只だ脚の取付部は考慮したい。』等の意見によって、上部工は可能なかぎり旧状に復元されたが、橋脚・橋台については安全性を優先させて、旧状の空石積み工法から、コンクリートの井筒基礎のうえに鉄筋コンクリートの心壁を造り、外側に練り石積みで外観を旧状に復したものにされたのであった。さらに、洪水の流下能力を高めるために、橋脚の天端が約1m嵩上げされ、橋脚の配置方向も変えられた。田中は自分の提案を議事録に残すことを強く要望しているが、その点では明治生まれの技術者の気骨を知る思いがする。



写真・キジャ台風洪水による錦帯橋の流失
(1950年9月14日)

今回の架け替えは、再建後40数年を経過し、木材の腐朽が目立ってきたことと、架け替え技術の伝承に主な理由があるが、この架け替えに際して文化庁より「文化財としての価値を高めるために、橋体だけでなく橋脚・敷石を含めた下部構造も、可能な限り再建前の工法によって元の姿を復元するよう」求められた。

岩国市では、この要請を含め、この修復事業を検討する委員会として、1997年5月に岩国市錦帯橋修復検討委員会を立ち上げ、その下に専門部会を設けた。今回の検討では錦川の洪水と橋の関係が主要な課題となることから、私がこの検討委員会の委員となり、専門部会の部長をおおせつかった。専門部会には土木関係者としては、私のほかに岡山大学の馬場俊介教授、早稲田大学の依田照彦教授、そして山口県河川課長が参画された。委員会は3回、専門部会は4回の検討が行われ、1999年2月に「現在の橋脚・橋台はそのままとし、上部工である木造構造物のみ架け替える」という架け替え方針が確定された。

その基本的な考え方は、文化財としての価値を高めるために可能なかぎり旧状に復することは当然であるが、錦帯橋は年間約100万人もの人々が渡る現役の構造物であり、その安全性をどう考えるかにあった。

現在の錦川の治水安全度はまだ低い段階にあり、今後ともキジャ台風時の洪水程度は襲来する可能性は高く、また阪神淡路大震災クラスの地震に対して、空石積み橋脚は「壊滅的破壊の起こる可能性が高い」ことが明らかになった。仮に、空石積み橋脚が残されていたならば、これを補強して何とか維持していくことが志向されたに違いない。しかし、現在の我々の空石積みに対する力学的研究段階は不十分であり、地震や洪水に対して「壊滅的破壊を回避できる」だけの構築法が確立されておらず、自信をもって空石積み橋脚を復元できる段階にはないと判断した。現在の橋脚・橋台の安全性は、再建当時の強度を有しており、まだ数十年は十分に耐久性があり、また阪神淡路大震災クラスの地震に対して、動的応答解析の結果、変形はあり得るが「壊滅的な破壊は起こさない」という結果を得た。将来、現在の橋脚が老朽化し、改築せざるを得なくなるまでに、研究を蓄積し、新たな空石積みを可能とする段階に達していることを期待して、現在の橋脚・橋台を踏襲することにしたのであった。

大阪府で初の近代土木遺産登録 —旧天王貯水池ほか—

大阪府教育委員会 有井 宏子

平成13年9月に、大阪府下の土木遺産としては初めて、旧天王貯水池（堺市）が登録有形文化財に承認された。続いて、築留二番樋および玉手橋（柏原市）が登録された。

旧天王貯水池は、上水道配水池として明治43年に造られ、昭和37年まで使用されていた。点検用通路の入口にある煉瓦造の構造物は、その優美な外観から、地元では「凱旋門」と呼ばれ

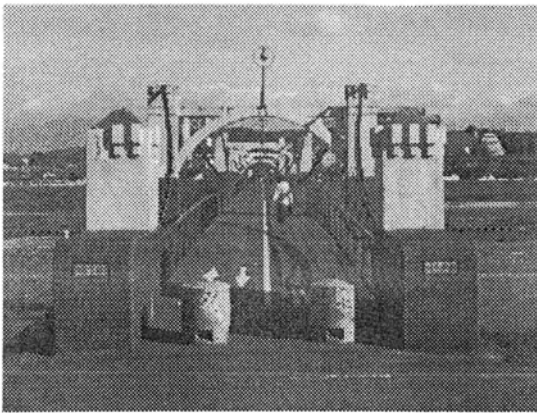


写真 玉手橋

ている。貯水槽にみられる煉瓦造のヴォールト架構のアーチ形天井の建築意匠も高く評価されている。

当初、貯水池跡地は売却の予定であったが、地元の保存運動が実った。保存運動の中心となった「けやき通町づくりの会」では、町のシンボルとなる整備を要望しており、市側も検討を進めている。10月14日・11月3日に開催された見学会には、1,500人が訪れた。

築留二番樋は、明治末期～大正期に造られたと考えられる煉瓦造りのアーチ型樋門である。アーチ断面が、鉄道トンネルのように馬蹄形であるのが特徴である。

玉手橋は、石川に架かる橋長151mの吊橋で、玉手山遊園へ続く歩道橋として昭和3年に造られた。日本で唯一の5径間吊橋である。遊園地への導入路にふさわしい愛らしいデザインが目を引く（写真）。今回の登録は、柏原市教育委員会の熱心な働きかけによって実現した。柏原市でも11月3日に講演会と見学会を実施し、好評を博した。

鞆の浦がWMFのワールド・モニュメント・ウォッチに選定される

東京都立大学 市古 太郎

広島県福山市鞆の浦は、2001年10月世界文化遺産財団（World Monument Fund; WMF）による「ワールド・モニュメント・ウォッチ・プログラム」の「ウォッチリスト」に選定された。このリストは、「危機にさらされている遺産リスト」とも呼ばれている。

WMFでは1996年に最初のリストを公表し、その後2年ごとに更新している。毎回100の遺産が選定され、今回で4回目のリストとである。

リストには、ナポリのポンペイ遺跡やエジプトルクソールの王家の谷などが含まれ、紀元前3,500年のマルタ島のMnajdra墓から、1965年のキューバの国立アートスクールまで、また地域的にも、アメリカ大陸、ヨーロッパ、アフリカ、アジアと全世界に分布している。2002年版では37箇所が前回からの継続で、新規が64箇所となっている。これまでに累計247箇所が選定され、その後基金からの援助を受けて危機を脱した遺産が、128箇所にものぼっている。

このリストは、世界各国から選ばれた10人の専門家委員会によって選定され、ノミネートは各国の担当部局だけでなく、NPOや研究者もノミネートすることが可能である。NGO主導型の活動形態といえる。またワールド・モニュメント・ウォッチ・プログラムの主スポンサーは各国政府ではなく、アメリカンエクスプレス社となっている。

選定対象はTomo Port townで、伝建地区指定に向けて動き出しているまちなみ地区だけでなく、港湾施設を含めたトータルな空間が対象となっている。日本大学伊東研究室や東京大学西村研究室が地元住民と共同で取り組んできた歴史的港湾施設およびアーバンデザイン研究の成果が反映されている。選定委員会でも、日本以外の委員から「鞆は日本では数少ない歴史的港湾施設として重要だ」という発言があったとのことである。

さて「鞆の浦」では、江戸期に形成された円弧型の水際線を埋め立て、バイパス道路を架橋する計画がすすめられている。県港湾審議会が2000年3月に

計画決定され、H13年度は水際線利用者の個別同意が進行中である。これに対し、地元町内会は白紙撤回を文書で求めている。また、伊東教授は著書『日本の近代化遺産』の中で、和歌の浦の架橋計画と問題が類似していて、世界遺産にも匹敵する町に対して、土木関係者が机上で判断するのではなく、現場の中で、よりよい計画とかたちを追求する姿勢が問われていると指摘しておられる。

こんな中で9月20日から3日間、全国町並みゼミが鞆の浦を会場にして開催される。文化遺産を

自分たちの手で守り、育ててきた地元市民の方々が本年1月に委員会をつくり、全国のまちづくり人が、鞆の浦を語る企画がすすんでいる。「危機にさらされている文化遺産」はまた、「危機を脱しようとする人々の闘いの場」ともなっている。そして2年後、「危機を脱した遺産」としてリストから外れるか、それとも「危機の中で消失した遺産」として外れるか、世界の人々の目が寄せられることになったと言える。

海外土木史

フランスにおける近代の歴史的記念建造物の保護

文化庁建造物課 北河大次郎

フランスは文化財が多い国として知られている。特に1959年の文化省設立に伴うアンドレ・マルロ文化大臣就任以降、保護すべき文化財の多様化が図られ、中でも近代の建造物が多く指定・登録されている。1961年の法改正では、歴史的または芸術的価値を有すあらゆる時代の建造物が歴史的記念建造物として登録可能であると明文化され、1963年には時代を代表しすでに逝去した建築家の関与、時代の流れを作り出したか、当時の先端技術が用いられたか、などを判断軸とした1850年以降の建造物リストが専門家によって作成され、その結果アールヌーボーや、その後の建築家ペレ、ル・コルビュジェらの作品などの指定・登録が進められる。

マルロ退任後、一時期近代の建造物保護は停滞するが、19世紀の代表的鉄骨造建造物の一つパリ中央市場の撤去を境に、再び人々の意識が近代に向けられる。各地方建築保護官が文化省の通達に従い提出した1830年以降に建てられた域内の優れた記念建造物リストをもとに、新たな建造物の保

護が図られる。国がまとめた建造物リストには、保護すべき歴史的街並みのリストもつけられ、そこには人口20,000人以上の都市の中心市街地が約100箇所含まれていた。これまでの優品主義的な保護行政の是正を視野に入れ、時代を代表する傑作のみでなく、地域の歴史の証であるより身近な街並みがこうして保護対象となる。

マルロ時代に設けられた調査と目録作成の作業を専門に行う部門の成果をもとに、1974～82年に、展覧会、パンフレットの作成などの様々なキャンペーンを通して日常的すぎてその文化的価値に気づきにくい商店建築の重要性を大衆に訴える活動が行われる。さらに、1981年ジャック・ラングが文化大臣に就任すると、これまで文化省が単独で行ってきた調査事業が関連する他省庁との連携で行われるようになる。

文化省が単独で作成した建造物のリストをもとに建造物保護を行うという手法から、他省庁と連携して悉皆調査を行いテーマ別のキャンペーンを通して保護を進めるという手法への変化。こうして、劇場、映画館、レストラン、カフェ、パン屋、肉屋、惣菜屋といった、新たなタイプの歴史的記念建造物が生まれ、保護対象の多様化がさらに進められていく。この手法は都市の建築に限定されるものではなかった。例えば、1965年にエッフェル社関連の施設が登録されて以降、1970年代に細々で行われていた山間地域の歴史的な鉄道施設の保護が、文化省、運輸省、国鉄S.N.C.F.、パリ交通公団の連携で、この時期新たに進められる。1983年に“S.N.C.F.—Culture”というワーキンググループが設置され、国鉄関連の古文書の調査も含めて、駅、工場、橋梁などの歴史的鉄道施



レ・ファド橋梁

設の調査が行われ、これに並行して、ポンピドゥセンターで駅の歴史に関する展覧会が開かれるなど、一般の人々の意識を高める努力が行われたのである。1984年には文化省の遺産局長から地方局に対して、域内の鉄道関連重要遺構の調査に関する通達が出され、最終的に、これらの調査結果をもとに1985年、23棟の建物と15基の土木構造物を歴史的記念建造物として保護する協定が国と国鉄の間に結ばれるのである（写真）。

その他、19世紀に建設された温泉や海水浴場などの保養施設が、厚生省、設備省、観光省などとの調査、協議を経て、歴史的記念建造物としていくつかが保護されている。また、文化省は従来の建

築の枠組みに収まりきらない産業関係の遺産を、省組織の枠組みで調査研究するために、1982年に産業遺産調査のセクションを設け、建設史のみでなく経済史、社会史を含んだ調査研究と、産業・土木構造物保護の基礎資料としての目録作りが進めるのである。

20世紀中期以降、各時代の文化担当大臣が打ち出す新たな方針や政策にもとづいて、フランスの歴史的記念建造物の保護対象は次第に多様化し、現在、国と地方が両輪となりこの多様化の路線がさらに進められている。彼らの試みはすべて成功しているわけではないが、歴史的記念建造物の充実に向けて着実に前進しているように思われる。

学会の動き

訃報 土木史研究委員会副委員長 市川紀一氏のご逝去を悼む

市川紀一氏は、2002年3月2日逝去されました。享年61歳でした。市川氏は昭和38年3月熊本大学工学部土木工学科を卒業後、ただちに、日本道路公団に入社され、天草五橋工事をはじめ多くの橋梁・道路建設に従事されました。平成6年、金沢管理局長を最後に道路公団退社後、(株)クローバーテクノの代表取締役役に就任され、お亡くなりになるまでその職責を全うされました。

会社経営の傍ら、土木史の研究を継続され、平成11年3月には「近代土木事業に関する研究—高田雪太郎の生涯と業績」と題する大著をまとめられ、熊本大学自然科学研究科より博士(工学)の学位を授与されました。平成12年6月からは土

木史研究委員会の副委員長として、土木史研究の発展、若手研究者の育成、九州を中心とした土木遺産の調査等に多くの功績を残されました。さらに、九州大学、熊本大学、九州共立大学等で道路工学や土木史に関連した講義を担当され、次世代の土木技術者の育成にも貢献されました。また、本誌の地方委員として紙面作成にも参画されました。

市川氏は、官界、実業界、学会とどの分野においても情熱的で誠実なお人柄にふさわしい業績を残されました。心から厚く、ご冥福をお祈り申し上げます。

(土木史研究委員会・幹事長 小林一郎)

第22回土木史研究論文発表会

下記の要領で第22回土木史研究論文発表会が開催されます。ふるってご参加ください。

- 主催：土木学会（担当：土木史研究委員会）
- 期日：2002年6月21日（金）～22日（土）
- 会場：北見芸術文化ホール
http://www6.ocn.ne.jp/~kitart21/index.html
（北海道北見市泉町1丁目2番22号、TEL：0157-31-0909、JR北海道北見駅南側徒歩3分）
- 参加費：会員、非会員：2,000円
学生会員：1,000円
論文集：6,000円
当日会場にて申し受けます。但し、スペシャルセッション、写真展は一般公開（無料）とします。
- 懇親会：
 - 日時：2002年6月21日（金）18:00～20:00
 - 会場：北見東急イン
（北見市大通西2-1、TEL：0157-61-0109）
- 参加費：3,000円程度を予定
- 参加方法：当日会場にてお申し込み下さい。
- 論文集「土木史22」事前販売のお知らせ
発表会当日の議論をより活性化することを主たる目的として、発表会開催前に、論文集「土木史研究」（4月末発行予定）を販売致します。ご希望の方はFAXまたはE-mailにて、「氏名、送付先（〒、住所、所属名、TEL）、購入部数、支払方法」を明記の上、下記あてお申し込みください。なお、論文集は1冊6,000円（+送料740円）です。
申込先：土木学会土木史研究委員会
（担当：丸畑）FAX：03-5379-0125
E-mail：maruhata@jsce.or.jp
申込締切：2002年5月13日（月）着分まで

7. プログラム：

- ①論文発表
 - ②スペシャルセッション「橋の見方・楽しみ方」（一般公開）
 - ③写真展「近代土木の技術と精神 — 写真が語る国土づくりの軌跡 —」（一般公開）
- ※プログラムは3月末時点のものでありますので、発表会当日のものと異なる場合があります。

◆6月21日(金)

時間	第1会場(2階 大練習室)	第2会場(1階 リハーサル室)
9:30	開会挨拶 土木史研究委員会委員長 佐藤 馨一	
9:40	【河川】 司会:山本 晃一((財)河川環境管理財団)	【土構造・石垣】 司会:伊東 孝(日本大学)
	A01 庄内川の治水史を通してみた新川の役割と治水問題 岩屋隆夫(東京都産業労働局)	A02 静岡県牧之原台地に残る土居について 二村 悟(工学院大学)
	B01 大山崎煉瓦造樋管にみる近代淀川の治水思想 田中尚人(京都大学)・太田史	B06 古墳石室構造の歴史的変遷についての技術的考察 西形達明(関西大学)・西田一彦・玉野富雄
	B02 「柳枝工私記」にみる粗雑工法-攻玉社土木科同窓会誌より- 榊山清人((財)全国建設研修センター)	B07 古墳盛土の地盤工学的特性 西田一彦(関西大学)・西形達明
	B03 室鳩巢「水は下より治ると申儀御尋に付申上候」にみられる享保期の治水思想 神吉和夫(神戸大学)・金築亮	B08 古墳に関する工学的視点からの考察(風雨浸食について) 木村真也(木更津工業高等専門学校)・田中邦熙
	B04 木曾三川宝厩治水史料にみる「見試し」施工に関する研究 知野泰明(日本大学工学部)・大熊孝	B09 城郭石垣の伝統技術の定量的表現法(試案)に関する研究 田中邦熙(木更津工業高等専門学校)・小林善勝
	B05 諏訪湖湖面の減少と浸水被害について 久保田稔(大同工業大学)・茂吉雅典・中村義秋	B10 城郭石垣形状の計測と変状の評価に関する考察 森本浩行(京都市立伏見工業高等学校)・西田一彦・西形達明・玉野富雄
11:45	【地域・都市Ⅰ】 司会:加藤 仁美(東海大学)	【保存・利活用】 司会:小林 一郎(熊本大学)
13:00	B11 横浜居留地の街区(山下町)の変遷について 鈴木宏宣(セントラルコンサルタント(株))・増淵文男・相崎円何	B17 歴史的河川空間保全に関する現況調査-仙台広瀬川の事例- 松山正将(東北工業大学)・菊地清文・花洲健一・佐伯吉勝
	B12 近代における岡山市と高松市の都市整備 — 土木事業費から見た比較 井上聖(岡山大学)・樋口輝久・馬場俊介	B18 桐生市近代水道を例とした土木史料の保存管理方法の提案 塚本健太郎(足利工業大学)・為国孝敏・大熊孝
	B13 明治から戦災復興期における仙台の国分町通りと東一番丁通りの変遷 関孝太郎(東北大学)・平野勝也	B19 有形・無形土木史料の保存・活用のあり方に関する研究 為国孝敏(足利工業大学)・大熊孝
	B14 福島県内の水辺を持つ歴史的公園に関する研究(白河市南湖公園を中心として) 今野辰哉(オリエンタル技術開発(株))・藤田龍之・知野泰明	B20 土木遺産保存・活用における技術的支援の在り方について-旧士幌線第六音更川橋梁の保存問題を事例として- 今尚之(北海道教育大学)・進藤義郎・葛西章・佐藤馨一
	B15 石炭鉱業地域社会の衰退と再生 横平弘(道都大学)	【災害】 司会:小林 一郎(熊本大学)
	B16 筑豊炭の運炭機構の形成に関する史的的研究 畑岡寛(九州共立大学)・田中邦博・市川紀一・亀田伸裕	B21 1945年9月に発生した広島県丸石川土石流災害について 石川大輔(日本河川開発調査会)
		B22 鉄道技術における列車凍上害への対策の変遷 原口征人(北海道大学)
15:00	スペシャルセッション「橋の見方・楽しみ方」(一般公開) 会場:音楽ホール	
15:15	司会:大島 俊之(北見工業大学 教授)	
	「近代橋梁の見方・調べ方」	小西 純一 (信州大学 教授)
	「鉄道橋の明治・大正・昭和」	小西 純一 (信州大学 教授)
	「道路橋の明治・大正・昭和」	藤井 郁夫 (東京鐵骨橋梁 顧問)
	「可動橋一覧と近代橋梁の利活用」	伊東 孝 (日本大学 教授)
17:15	「北海道の橋梁土木遺産-最近の話題から-」	進藤 義郎 ((株)ドーコン 常務取締役)

◆6月22日(土)

時間	第1会場(2階 大練習室)	第2会場(1階 リハーサル室)
9:00	【橋と石造構造物】 司会:五十畑 弘(NKK)	【地域・都市Ⅱ】 司会:為国 孝敏(足利工業大学)
	B23 比較文明論からみた肥後の石造 小林一郎(熊本大学)	A03 通信省の附帯命令制度と東京市電気局における地中配電に関する研究 鈴木悦朗(服部エンジニア(株))
	B24 北海道に現存する石橋の現況に関する調査 葛西章((株)リテック)・進藤義郎・今尚之・佐藤馨一	B31 大深度地下使用法制度に至る都市地下空間利用小史 古米武治・西淳二・田中正・清木隆文
	B25 加藤乙三郎と四つの発電所 茂吉雅典(大同工業大学)・諸戸靖	B32 首都圏における飛行場と都市計画 日高直俊(大成建設(株))・手塚慶太・福井恒明・篠原修・天野光一
	B26 曲線斜め堰の設計原理 崎谷浩一郎(日本工営(株))・中井祐・篠原修	【制度・人物史】 司会:為国 孝敏(足利工業大学)
	B27 震災復興橋梁の設計における標準的仕様に関する研究 藤澤加奈子(パシフィックコンサルタンツ(株))・窪田陽一・深堀清隆・川辺了一・大友正晴・惣慶裕幸	B33 定法形成過程に関する一考察 - 刑賤須知と御普請一件被仰渡書にみる - 篠田哲昭(北海道建設工学専門学校)・中尾務
	B28 東日本における木造方杖橋の構造形態について 安達實(金沢大学)・本江裕之・金森範孝・北浦勝	B34 佐賀藩の土木建築規制に関わる法令一里山方井道屋敷方について 金澤成保(大阪産業大学)
	B29 北海道の現存事例による重構桁(JKT)橋梁の特徴に関する研究 進藤義郎((株)ドーコン)・葛西章・今尚之・佐藤馨一	B35 電力土木の歴史—第2編 電力土木人物史(その10) 稲松敏夫(稲松技術士センター)
	B30 大正・昭和前期における鋼鉄道橋の達成とその現況 小西純一(信州大学)・西野保行・中川浩一	B36 「新未来記」を土木的に読む 長谷川博・樹山清人
11:45		B37 技術の哲学的洞察 - 三枝博音・そしてある試み - 吉原不二枝
12:00	総括及び閉会挨拶 土木史研究委員会副委員長 伊東 孝	

A01～A03:審査付論文, B01～B37:自由投稿論文

8. 宿泊・航空券・見学会の予約:

土木史研究委員会ホームページ<<http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/index.htm>>をご覧ください
 どうか、下記へ直接お問い合わせください。なお、予約申し込み期限は4月末日です。
 近畿日本ツーリスト(株)北見支店(担当:谷内、TEL:0157-61-5313)

文化財ニュース

登録文化財となった土木構造物一覧

平成13年度11月答申分

名称	所在地	建設年代	特徴等
大河津分水洗堰	新潟県西蒲原部分水町	大正11年	信濃川改修工事の代表的遺構の一つで、我が国最初の本格的RC造堰
観魚洞隧道	静岡県熱海市	明治43年	熱海・伊東間を結ぶ旧幹線道路上の、総切石積隧道
井風呂谷川砂防三号堰堤	岡山県総社市	明治33年頃 /明治44年頃・昭和初期増築	総高約12m、堤長70m超の大規模な空積及び練石積堰堤
大谷川堰堤	徳島県美馬郡脇町	明治22年頃 /昭和初期増築	吉野川改修工事の一環として建設された緩曲線平面を有す石造堰堤
JR善通寺駅本屋	香川県善通寺市	大正11年	真壁造の躯体部にハーフティンバー風意匠の車寄ポーチを張り出す
日見トンネル	長崎県長崎市	大正15年	石張アーチ環で囲まれた馬蹄形坑口を有す2車線仕様のC造構造物

— 土 木 史 関 係 図 書 —

書名	著者・編者	発行所・発行日	定価
廃墟漂流	小林伸一郎	マガジンハウス・2001/09	¥3,500(税別)
本書では、廃墟写真家として知られる小林氏が日本全国を渡り歩き出会った廃墟・廃屋が数多く取り上げられている。近年の廃墟ブームも追い風となり、前作「廃墟遊戯」(1998)とともに写真界をはじめ一般人の間でも大きな話題を呼んでいる。あくまで撮影動機はその美的・景観的観点にあるものの、今後の調査によっては土木史的価値を獲得しうる、いわば「近代化遺産予備軍」と呼ばれるべき土木構造物・産業施設が指されている点は注目に値する。芸術家の「選球眼」の鋭利さを痛烈に物語る力作といえよう。			
ワトキンス調査団名古屋・神戸高速道路調査報告書	ワトキンスレポート45周年記念委員会	勁草書房・2001/11	¥4,800-
名古屋、神戸高速道路計画の経済ならびに技術的妥当性に関する1956年にワトキンス調査団によって作成された報告書の復刻版。原文版(英文)も限定300部発行。			
大井川に橋がなかった理由	松村博	創元社・2001/12	¥1,800-
近世の東海道の東大井川渡河点には橋がなく、渡船も認められず、人力で人や荷物を渡していた。一般に幕府が軍事的、政治的に橋を認めなかったとされるが、技術的、地形的要因であることを論証している。土木史研究発表会での数回分の発表内容を中心にまとめている。			
東北地建の橋梁(Ⅱ)	国土交通省東北地方建設局	東北建設協会・2000/03	¥3,500-
東北地建管理の全橋梁の諸元の一覧表とともに、主要102橋梁の写真、一般図などの概要を載せている。			
古代の土木技術	狭山池博物館		¥900-
大阪府立狭山池博物館の開館記念展の図録。古代の土木技術の内容を紹介している。			
東海道さんさくマップ	東海道さんさくマップ編集委員会	中部建設協会・2001/08	¥1,000-
近世東海道の歴史地理の解説。データブックでもある。			
琵琶湖・淀川水系 水をさぐる 上・下	山本善稔	梅田出版・2001/03	各 ¥2,000-
琵琶湖・淀川水系の利水、治水、文化についてオムニバス式に記述されたもので面白い物語になっている。			
全国地方史誌関係図書目録2000	クオリ	クリオ・2001/10	¥3,360-
国立国会図書館の収集情報誌「日本図書誌」より、地方誌および関係する図書を抽出し、その書誌情報の摘記を県別市町村順に配列した目録。国、地方自治体、学校、団体、個人発行などの非流通図書の目録。毎年1冊発行。本書は12冊目。			

※今回はフォーラム19号に併せて実施しましたアンケートでご回答いただいた関連図書情報の一部を掲載いたしました。今後も関連図書の情報をお寄せください。ご協力ありがとうございました。

編集後記：20号の発行につきましては、以前よりフォーラム掲載の発表会プログラムと当日プログラムが異なり混乱するのご指摘があり、プログラムの確定を待って4月中旬となりました。また、19号発行と併せて実施したアンケートに対しては75通のお返事いただきました。これらをもとに今後の土木史フォーラムのあり方を検討していきたいと考えております。尚結果につきましてはホームページにて公開予定です。本誌18号にご寄稿いただきました市川紀一氏(土木史

研究委員会副委員長)が亡くなりました。フォーラム小委員会より心よりご冥福をお祈りします。

土木学会土木史研究委員会監修
土木史フォーラム No.18
発行者 土木史フォーラム小委員会
代表者 昌子 住江
事務局 関東学院大学工学部 鈴木 伸治
〒236-8501 横浜市金沢区六浦町4834
TEL/FAX 045-786-7751
Email: nsuzuki@kanto-gakuin.ac.jp
URL: http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~nsuzuki/forum/index.htm

CONTENTS

- NEWS		
Amagi Tunnel and Traffic Management	ICHIKO Taro	1
- FORUM		
Preservation Project on Kintai Bridge	OKUMA Takashi	2
- LOCAL NEWS		
Tennoh Reservoir and other Civil Engineering Works in Osaka Registered on Heritage List	ARII Hiroko	3
Tomo Port Town Listed on World Monument Watch List by WMF	ICHIKO Taro	
- OVERSEAS NEWS		
Conservation of Modern Cultural Heritage Momuments in France	KITAGAWA Daijirou	4
- REPORT FROM CHSCE (Committee on Historical Studies in Civil Engineering)		5
Mourning for Dr. Ichikawa's Death, Vice Chairman of CHSCE	KOBAYASHI Ichiro	
Program of 22nd Conference of CHSCE		
- Civil Engineering Works on Latest Heritage Registration List		
- BOOK GUIDE		
	YOKOMATSU Muneharu	7
	OKADA Masaaki	8